

# 菅茶山 顕彰会 会報

第 12 号  
発 行

菅 茶 山 先 生  
遺 芳 顕 彰 会  
2002年3月1日



移設中の義倉田石碑と除幕式

## 歴 史 の 刻とき

高 橋 孝 一

御幸町中津原の田圃の中にずい分むかしの石碑があった。これは飢饉などの時に、困窮者を救済する組織「義倉」が文化十一（一八一）年に義倉田の所有を表すために建てたものである。その当時ここは近世山陽道の道沿いであった。

石碑は、約三十センチ四方、高さ百八センチで正面には「義倉田」、側面には総面積（約一町一反）などが刻まれている。近年、芦田川の護岸工事などで見えにくくなったので、これを機に郷土史家などの賛同を得て「義倉」へ里帰りとなったものである。移設から除幕式まで私も立会人の一員に加えさせてもらった。

財団法人「義倉」は備後地方で生活・文化関連事業の支援を続け、毎年、基金から拠出する浄財を約五十の団体に助成しており、わが顕彰会の「ポエム絵画展」に対しても、多額の助成をいただいている。

この財団活動は、茶山が行った困窮農民の救済が発展したものである。茶山が朱子学の実践者として、農民救済に力を尽くしていたことはよく知られている。

二百年の歴史を語る生証人として、義倉の玄関わきに立つ石碑には、新しく義倉田の由来や歴史を記した石碑も併設されている。

河相理事長は、「義倉」の前身である『福府義倉』は、当時、福山藩の儒官である茶山の遠縁にあたり、親密な関係にあった千田村庄屋・河相周兵衛が、茶山の協力を求めて一八〇四年設立。『福府義倉』の名付け親は茶山である。石碑は義倉の歴史を物語るシンボル。沢山の人に見てほしい」と語った。

（菅茶山先生遺芳顕彰会会長）